

## Smart Times

「ああ、この起業家とはやっつけていけない」。投資依頼の場で起業家が発するひとりでそう決断することがある。その起業家はそんなことになるとは思わず、無意識のひとりで思う。そ

の言葉を聴くのは、熱のこもったプレゼンが終わりに息ついた雑談のときや、帰る間際のことが多い。その「ひと言」は、その人の生き方や考え方が内面から出た本音の言葉だ。人や社会に寄り添う生き方で

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート(現リクルートホールディングス)入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

はなく、自己中心的で自分めとその事業をやるのか、だけがよければいいと考え、考え抜いた言葉には生命力がある生き方を見せてしまいがち、生き方が映し出さう。そういう人には、最終的に誰もついでに、社会も支持しないだろう。

るが、「世界を変える」ための手段と考える創業したケースが多い。こういった起業家が立ち上げたスタートアップには資金や人が集まり、現場力が高い組織ができ、長期視点で先読みした経営戦略ストーリーによって社会を変革していく。かつての起業家はまず「利益」を上げたあとで世界の多くの企業は「自社の

## 投資決断を変える一言

レゾナントル」を突き付けられ、考える機会となる

この「言葉」は緊張から解放されたときに無意識に出るものでコントロールはできず、その人の内面が映し出される。失言ではなく、言葉は体を表すものだ。

会的な貢献に努める傾向が強かった。現代のユニコーンに共通するのは利益のみを追求するのではなく、社員を含めた「人」、地球の「環境」にも配慮していく、融合スタイルの起業家像だ。

どんなに歴史のある大企業も、はじめは「たった一人の起業家」が立ち上げたスタートアップだ。創業時「誰のために」「何のためにユニコーンが誕生していること」から出発する。しかし、

た。地球レベルの環境問題が増大し、人々も社会の認識も変わった。これからの起業に大切なことは、「人(People)」「環境(Planet)」「利益(Profit)」の融合であり、脱炭素をはじめSDGsを包含したサステナビリティ経営を目指すこと